

市長と語ろう！ふるさと郡上の未来

市民のみなさんから市長が直接、市政に対するご意見やご提言を伺い市政の運営に生かす「市長と語ろう！ふれあい懇談会」を市内7地域で開催しました。
各地域での意見交換の一部を要約して紹介します。

美並地域（9月25日）

【地域協議会の活動について】

■市民：美並地域の市民の約90%が企業に勤務しているため、他の地域に比べてまちおこしに関する活動が遅れていると思う。現在、都市化が進み、各地域における人と人との繋がりが希薄になってきていることが問題となっている。地域協議会では、挨拶運動として、小学生から一般の方までを対象とした挨拶標語の募集を行い、優秀作品については、生涯学習カレンダ―に載せることや、マグネットシートに印刷し各家庭に配布するなどの活動を計画している。

■市長：挨拶運動のような活動により、地域として連帯意識を持っていたことは良いことなので活動を進めていただきたい。

【日本まん真ん中センター応援隊の活動について】

■市民：応援隊は、市民協働の取り組みとして日本まん真ん中センターサポート事業を行っている。センターをより多くのみなさんに利用してもらえるよう、イベントなどを実施している。以前は、センター内に喫茶スペースがあったが、現在は活用されていない。美並地域には飲食店が少なく、母親たちが集まって交流する場所や機会が少ないのではないかと考える。センターのスペースを交流できる場所にするために、もっと活用しやすくていいか。

■市長：常設の喫茶室については、今年3月末まで営業されていたが、都合により閉められたようである。スペースの活用については、営業される方にとって利益が出るかという面と、保健所等の規制の問題等があるのではないかと考える。みなさんが集まる機会に臨時に利用できるようにような仕組みができないか、また設備の問題等について検討していきたい。

【観光農園について】

■市民：美並で苺栽培を行っている。ハウス栽培のため狭い面

積でも栽培可能で、また被害も抑えられるのではないかと考えている。郡上市は、交通のアクセスも良く、郡上おどりなどの観光資源、観光施設もあるため、連携しながら将来的には観光農園として新しい産業になればと考えている。ある程度の規模になれば、人の流れも大きくなるとともに、高齢者の就労の場の確保にも繋がっていくと考えている。

■市長：素晴らしい取り組みであるので、ぜひ頑張っていたきたい。市外から人呼び込むということは、非常に重要であると考えている。観光農園のみで人を呼び込むことは難しいと思われるので、他の観光施設等と連携したコースづくりなど検討していきたい。

大和地域（9月28日）

【安定した雇用の創出について】

■市民：郡上市においても、少子高齢化により、ますます人口減少が進んでいる。高校卒業後、卒業生のお大半が市外へ就職や進学で出て行く状況が問題ではないかと思う。生活環境が恵まれているためか、重労働や屋外での専門職の就職率が下がっていると思う。そのため、企業ではこのような若い人材の確保が大変なのではないかと考える。大型製材工場の誘致や、新たな観光サ―ビス業が生まれつつあるということ、若者の定住化が推進されていると思うが、Uターン等の受け入れ体制を一層強化していただきたい。

■市長：ここ数年推進してきたことが実を結び、2件の企業誘致を行うことができた。今後、郡上市において企業誘致を進めていくためには数年かかることもあるが、用地などの受け皿を作ることが必要と考えており、そういったことから取り組んでいきたい。また、郡上ブランドといったモノづくりも進めていきたいと考えている。

【公園整備について】

■市民：大和町内の公園を、休日になると親子がたくさん集まり遊具などで遊ぶ、トイレなど



八幡地域（9月29日）



【女性防火クラブの活動について】

□市民：八幡連合女性防火クラブは、八幡連合女性の会が母体となり、市民の生命、財産を守るといふ使命のため、広報活動や訓練を行っている。活動は、八幡地域を対象に全国統一防火標語を全戸配布したり、炊き出し訓練の一環として郡上八幡ふるさと祭りに出店などを行っている。また郡上市女性防火クラブは、5人の本部役員により活動している。現在、100年に1度と表現される災害が多く発生している。災害時の防火防災の組織は、男性だけでなく、女性の力がプラスされた組織でなければならぬと考える。自治会、自主防災組織の役員に女性を位置づけていただき、地域の防災に関するリーダーとなる方を養成していただきたい。

【ふるさと納税について】

□市民：今年度から、郡上市においてもふるさと納税の返礼が行われるようになったが、長良川鉄道に関するものを返礼品に加えてはどうか。郡上市だけでなく、美濃市や関市などの沿線市町とともに長良川鉄道を盛り上げていくことを欲しい。

□市長：ふるさと納税については、この春から納税をいただいた市外の方を対象に一定のお礼をするようにしている。これに伴い納税額が増えていると感じている。その活用先については長良川鉄道を応援するというような項目を設ければ、もっと鉄道ファンの方からの支援が得られるかもしれない。ふるさと納税は、何に使うかが大切であると考えており、その項目に共感共鳴していただける方からふるさと納税をいただくことが大切であると思っている。沿線市町と協力をとのことであるが、以前他の首長に提案したこともあるので、連携しながら、長良川鉄道を応援していくような仕掛けができないか検討したい。

【少子高齢化問題について】

が整備された公園にしていたいただきたい。わざわざ市外の公園まで足を運ばなくてもよいような環境の整備をお願いしたい。

□市長：郡上市全体が公園のよい環境ではないかと思っている。しかしながら、若いお母さん方がお互いに交流し、安心して子どもを遊ばせられる公園の整備がやはり必要な時代なのかもしれない。ここに整備するか、どのような遊具が必要なのかなど、若い方に意見を聞いていかなければならないと考える。郡上市としては、現状ある施設を整理統合していく方向であり、新たな施設を整備するということは少ない状況となっている。市内に公園が無いわけではないので、時代のニーズに合わせたリフォームなどにより要望に対応していければと考える。

【少子高齢化問題について】

□市民：少子高齢化とよく言われるが、少子化と高齢化にはそれぞれ課題があると思っている。若い人に、結婚して子どもをたくさん産んでくださいという割には、女性の社会進出というところで、どんどん働いてくたさいと言っているのは矛盾しているのではないか。市として、女性が働くということと、子どもを産んでくださいということ

また、高齢化について、定年後の人たちに移住してもらうということは、いろいろな面で市の財政負担が増えてしまうのではないか。高齢者の働ける職場を確保するというような方向性を都市部の人に提案し、定年後は郡上に住んでみてくださいうようなPRをしてほしい。

□市長：少子化と高齢化が別問題ということはそのとおりであると考え。少子化は、赤ちゃんが生まれる人数が減ってきているということであり、高齢化は、医療や福祉の発展により、命長らえて高齢者が多くいるということであり、人類の夢なのではないかとも思われる。

女性に対して仕事か出産かという二者択一については、今の若い方は自分の自己実現のために仕事もしたいし、子どもも可能な限り2人より3人産みたいという方が多いのではないかと思っている。旦那さんの稼ぎだけで子育てに専念できるのであればよいという方もいると思うが、働きたいし子どもも育てたいと考える女性に対して、希望に応じた支援をしていきたいと考える。

【町並み保存会活動について】

□市民：昭和61年に町並み保存会を結成し、今日まで保存活動を行ってきた。平成24年12月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、建物の修理修景事業が国の補助金を使って実施できるようになった。防災の面においても支援を受けられるようなので、消火栓の整備などを修景事業とともに推進していただきたい。

□市長：八幡町北町地区の伝建地区および重伝建地区の指定については、地元の方々の理解などにより受けることができた。まちづくりや防災、無電柱化などいろいろな相談させていただきながら、整備を行っていききたい。

□市長：女性防火クラブの衰退は、旧町村単位の女性の会が無くなってしまったことに通じていると思う。自治会の中や、自主防災組織の中に、女性の防災意識を取り入れて取り組みをされている地区があることも承知している。女性防火クラブという形では難しいかもしれないが、防災に対する女性の対応力を強めていかなければならぬ